

履歴書

(2010年6月14日)

【氏名】

武田 史郎

【現在の所属・連絡先】

- 関東学園大学経済学部准教授
- 住所：373-8515 群馬県太田市藤阿久町 200 関東学園大学経済学部
- Email アドレス：<shiro.takeda@gmail.com>
- ウェブサイト：<<http://shiro.takeda.org>>

【その他所属】

- 「上智大学・環境と貿易研究センター」客員研究員

【現在の研究テーマ】

- 排出量取引等の「地球温暖化対策の分析」
- 自由貿易協定 (FTA), 経済連携協定 (EPA) 等の「地域間協定の分析」
- 応用一般均衡分析 (Computable General Equilibrium Analysis) の研究

【学位】

- 1999年3月：経済学修士，早稲田大学，修士論文タイトル：「不確実性下のトランスファー」.
- 2005年3月：博士（経済学），一橋大学，博士論文タイトル："An Economic Analysis of Environmental Regulations".

【学歴】

- 1995年：早稲田大学政治経済学部経済学科卒業
- 1999年：早稲田大学大学院経済学研究科修了
- 2003年：一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学

【職歴】

- 2003年4月－2005年3月：関東学園大学経済学部専任講師
- 2005年4月－2007年3月：関東学園大学経済学部助教授
- 2007年4月－現在：関東学園大学経済学部准教授

【論文（刊行済み，※付きは査読付き）】

- ※ "A computable general equilibrium analysis of the welfare effects of trade liberalization under different market structures", *International Review of Applied Economics*, Vol.24, pp.75-93, 2010
- ※ 「日本経済研究センターCGE モデルによる CO2 削減中期目標の分析」, 『環境経済・政策研究』, Vol.3, No.1, pp.31-42, 2010 年（共著者，川崎泰史，落合勝昭，伴 金美）.
- "Economic Growth and Carbon Emissions with Endogenous Carbon Taxes", 『関東学園大学経済学紀要』, 第 34 集, 第 1 号, 2007 年.
- ※ "The double dividend from carbon regulations in Japan", *Journal of the Japanese and International Economies*, Volume 21, Issue 3, September 2007, Pages 336-364.
- ※ "The effect of differentiated emission taxes: does an emission tax favor industry?" *Economics Bulletin*, Vol.17, No.3, pp.1-10, 2005.
- ※ "International Income Transfers under Technological Uncertainty", *Hitotsubashi Journal of Economics*, Vol.42, No.2, pp.141-155, 2001.

【論文（未刊行）】

- 武田史郎・川崎泰史・落合勝昭・伴 金美 (2009), 「日本経済研究センターCGE モデルによる CO2 削減策の分析：中期目標検討委員会で用いたモデルと試算の解説」, JCER-Discussion Paper No.121
- 川崎泰史・落合勝昭・武田史郎・伴 金美 (2009) 「日本経済研究センターCGE モデルによる CO2 削減策の分析：「温暖化タスクフォース」で用いたモデルに関する技術ノート」, JCER-Discussion Paper No.126.
- 武田史郎，伴金美, (2008), 「貿易自由化の効果における地域間格差：地域間産業連関表を利用した応用一般均衡分析」.
- 武田史郎，川崎泰史，伴金美, (2007), 「温暖化対策分析用 CGE モデルへの新技術・新エネルギーの導入方法」. New ESRI Working Paper Series No.5.
- 武田史郎, (2007), 「貿易政策を対象とした応用一般均衡分析」, 2007 年 3 月, RIETI Discussion Paper Series 07-J-010.
- Shiro Takeda and Kanemi Ban, (2008), "A CGE Analysis of CO2 Regulation in Japan with Consideration to New Energy and Technology". Paper presented at International Forum of ESRI (Cabinet Office), Tokyo, March 7, 2008.
- Shiro Takeda, (2007), "Comparison of the Effects of Trade Liberalization under Different Market Structures".

【学会発表・報告等】

- 2010年5月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), 2010年度環境経営学会研究報告大会、東京大学駒場キャンパス
- 2010年3月 「温暖化対策の経済分析：新技術・新エネルギーの導入と評価」, 平成21年度農村工学研究所研究会
- 2010年2月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), Carbon Policies, Competitiveness, and Emissions Leakage: An International Perspective Workshop co-sponsored by Resources for the Future (RFF), Sophia University, and the U.S. Environmental Protection Agency (EPA).
- 2009年11月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), 上智大学・環境と貿易研究センター第二回ワークショップ
- 2009年9月 “Output-Based Allocation of Emissions Permits for Mitigating Carbon Leakage for the Japanese Economy” (Coauthors: Toshi Arimura, Hanae Tamechika, Carolyn Fischer, Alan K. Fox), Resources for the Future Lunch seminar.
- 2009年9月 「中期目標検討委員会」における日本経済研究センター CGE モデルについての解説 (共著者, 川崎泰史, 落合勝昭, 伴金美), 環境経済・政策学会2009年大会 (千葉大学)
- 2008年5月 「貿易自由化の効果における地域間隔差：地域間産業連関表による応用一般均衡分析」(共著者, 伴金美), 日本経済学会2008年度春季大会, 東北大学
- 2008年4月 「貿易自由化の効果における地域間隔差：地域間産業連関表による応用一般均衡分析」(共著者, 伴金美), RIETI DP 検討会, RIETI
- 2008年3月 "A CGE Analysis of CO2 Regulation in Japan with Consideration to New Energy and Technology" (伴金美氏との共同論文), 「ポスト京都議定書」の政策課題に関する国際共同研究, 研究報告会, 平成20年3月7日, 三田共用会議所, 内閣府経済社会総合研究所 (ESRI) 主催.
- 2007年11月 「貿易自由化の効果における地域間隔差：地域間産業連関表による応用一般均衡分析」(共著者, 伴金美), 第六回国際経済セミナー, 一橋大学
- 2007年10月 「温暖化対策分析用 CGE モデルへの新技術・新エネルギーの導入方法」.

(川崎泰史氏，伴金美氏との共同論文)，内閣府経済社会総合研究所報告会

- 2007年3月 「貿易政策を対象とした応用一般均衡分析」，RIETI DP 検討会，RIETI
- 2005年10月 "A CGE analysis of Japanese FTAs under Different Market Structures"，
日本国際経済学会，立命館大学
- 2005年6月 "A CGE analysis of Japanese FTAs under Different Market Structures"，
日本経済学会，京都産業大学
- 2004年7月 「応用一般均衡分析による日本のFTAの評価」，第四回国際経済セミナー，一橋大学
- 2004年6月 「二酸化炭素排出規制における二重の配当の可能性：動学的応用一般均衡分析による評価」，日本経済学会春期大会，明治学院大学
- 2000年9月 "The Effects of Differentiated Emission Taxes."，日本経済学会秋季大会，
大阪府立大学
- 1999年10月 "International Income Transfers under Technological Uncertainty."，日本経済学会秋季大会，東京大学

【研究資金等】

- 2009年－：環境省，「環境経済の政策研究：日本における環境政策と経済の関係の統合的な分析・評価のための研究」
- 2009年－：環境省，「環境経済の政策研究：国際的な排出量取引による経済的影響に関する研究」
- 2007年－2008年：文部科学省 科学研究費（若手B）（2007 - 2008年度），研究課題名：「日本における環境税（炭素税）導入のシミュレーション分析」

【学会】

- 日本経済学会（1999－）
- 日本国際経済学会（2000－）
- 日本財政学会（2005－）
- 環境経済政策学会（2009－）
- American Economic Society（2008－）

【レフリー活動】

- Environment and Development Economics
- Hitotsubashi Journal of Economics

【その他の活動】

- 2009年10月ー：環境省，研究課題「環境経済の政策研究：日本における環境政策と経済の関係の統合的な分析・評価のための研究」に参加。
- 2009年10月ー：環境省，研究課題「環境経済の政策研究：国際的な排出量取引による経済的影響に関する研究」に参加。
- 2009年4月ー：上智大学，「環境と貿易研究センター」のプロジェクトに参加。
- 2009年2月・3月：政府「中期目標検討委員会」下の「モデル分析ワーキングチーム」に日本経済研究センターを通して参加。CGE分析を担当。